

「ナイヤガラ瀑布はわが父のもの」

伝道者木村清松物語



「汽笛一声新橋を」で始まる鉄道唱歌のメロディーで、「創、出、レビ、民、申命記、ヨシュア、士師、ルツ、サム、列王…」以下、聖書66巻を覚えたクリスチャンは数多い。むしろ知らないクリスチャンはごく少数であろう。これを普及させた人こそ、1874年、新潟県五泉町の醸造業者の家に生まれた木村清松であった。

家業を継ぐ、という当時の習わしに満足できず、「絶対にヤソ(クリスチャン)にはならない」と約束して両親を説き伏せ、ミッションスクールである北越学館に入学するが、そこで聞いた聖書に捉えられ、家族大反対の中、洗礼を受けた。まだキリストが邪教と教えこまれていた時代であったのである。

1894年渡米。救世軍に入隊して、士官学校に入隊。1896年より太平洋大学で、1899年よりムーディー聖書学院で学び1902年に帰国。結婚後、満州で伝道し、世界一周伝道旅行を果たす。1916年、あれだけ信仰を反対された郷里の五泉についにキリスト教会を設立する。1918年、中田重治、内村鑑三とともに再臨運動を始め、全国各地に信仰の火を燃え上がらせたのは歴史的な出来事として多くの人に記憶されている。

1908年、アメリカのバッファロー市の教会で説教をしてからナイヤガラ瀑布を見物していたときのこと、一人のアメリカ人から「こんな大きな滝は日本にはないだろう」と言われた清松は、すかさず「これを造ったのは私の父だ」と言ったものだから、相手は大変驚いた、という。もちろん清松の言う「父」とは神のことであった。この出来事がデトロイトの新聞に載り、「ナイヤガラの持ち主を父とする日本人来たる」と宣伝され、アメリカ各地で講演を行なった、というエピソードは、清松の人柄をいかんなく表していて興味深い。

今回は、まだキリスト教が偏見の目で見られていた時代に、聖書を広めた新潟生まれの世界的伝道者、木村清松の生涯から学びます。

記

1. 日時：2016年2月19日(金) 10:30 AMより
2. 場所：ゴスペルホール(電話 026-295-6705)
3. 講師：尾崎富雄(ゴスペルホール代表)

入場無料。どなたでも参加できます。